

令和元年度第1回 さいたま市廃棄物減量等推進審議会

議 事 録

日時 | 令和元年7月8日(月)

14:00~16:00

会場 | さいたま市役所本庁舎別館 第6委員会室

令和元年度第1回さいたま市廃棄物減量等推進審議会 議事録

1. 日時

令和元年7月8日(月) 14時00分 開会 ～ 16時00分 閉会

2. 場所

さいたま市役所別館 第6委員会室

3. 出席者(敬称略)

出席委員

秋元 智子 園田 真見子 磐田 朋子 程塚 美督 山崎 栄慈
小峰 武久 小山 妙子 長谷川 功一 野代 幸一 大前 万寿美
丸山 繁子

欠席委員

川本 健 佐藤 弘 白鳥 証一

事務局

[資源循環推進部]

資源循環推進部長 資源循環政策課参事 [兼] 課長 廃棄物対策課長 外4名

[施設部]

施設部長 環境施設管理課長

4. 次第

議事

第4次さいたま市一般廃棄物処理基本計画の事業評価について

その他

5. 議事録

■ 議事 第4次さいたま市一般廃棄物処理基本計画の事業評価について

秋元会長： それではまず、議事の「さいたま市一般廃棄物処理基本計画の事業評価について」ですが、これは平成30年3月に策定・公表した「第4次計画」に掲載している全53事業の取組状況について、事務局がまとめた報告書を基に、本審議会で審議し、見直しが必要なものについては改善を求めるなど、計画の進行管理を行うものです。

それでは、平成30年度の事業評価について事務局から報告をお願いします。

事務局より、資料1・2に基づき説明が行われた。

発言内容

野代委員： 「出前講座」や「生ごみの水切りの促進」ですが、自治会等に紹介しようと思うが、時間とか対象人数はどうなっていますか。

事務局： コマ45分で、原則として最低20名の参加者がいれば申し込みを受けています。市からうかがうので資源循環政策課などに連絡いただければと思います。

秋元会長： 評価に関して何かありますか。

小山委員： 「サーマルエネルギーセンターの整備計画」の表記のしかたを、まだ平成になっているので資料として統一してほしいと思います。

事務局： 失礼しました。事業の方向性としては、今年度中に事業契約が結べるので令和2年から建設工事が入ります。

秋元会長： 家庭系ごみが増えた、資源ごみ・事業系ごみが減っているという事務局の話でしたが、資源物が増えるごみの中に入っているのではないのでしょうか。資源物が減ったのは、びん・かんの減少で重さが減っているのだからと思いますが、感覚的に市としてどう捉えていますか。

事務局： 資源物のうち雑がみは、分別が面倒でもえるごみに混じっている可能性があるかと思います。また数字上では食品包装プラスチックが減少している状況です。食品包装自体の減量化が進んでいる流れもありますが、それにしても少ないのではないかと、もえるごみに混ざっている可能性もあるものと認識しております。第4次基本計画策定にあたり平成28年度に組成分析を行った際には、もえるごみの約1割がプラスチックごみで、そのうち約4割がペットボトルや容器包装プラスチックが混じっている状況でした。第4次計画策定にあたり、このもえるごみに含まれる資源化できるプラスチック4割を削減す

るということを意識し目標値を設定しております。今後も出前講座等で啓発を進めたいと考えております。

秋元会長：びん・かんは減っているようだが、ペットボトルの消費量は増えていくかと思えます。そこでマイボトル等で啓発していくのはいいでしょう。ライフスタイルを皆が考えることが重要と思えます。

程塚委員：「サーマルエネルギーセンターの整備計画」について、全体にごみを減量する中で整備計画の位置づけがずれることはありませんか。

事務局：ごみが減っていくことを想定しながら、統廃合については、処理量を若干縮小させて計画しています。

程塚委員：整備計画は年次的に可変的なものと思えますが、予想もつかない感覚でごみ量が減っていった場合、整備計画の必要性がどうなのかということも考慮すべきではないですか。

事務局：施設の規模を策定するにあたり、第4次一般廃棄物処理基本計画の中でごみ量を想定しております。最終的に計画の中で、人口のピークが令和7年で、そこを見越して処理量が足りるかどうかが、また施設の規模については国の補助金に定める計算式があって、既存の施設の能力と新たな施設の能力を加味して検討しているところです。ご指摘のように、想定している人口の伸び率が計画とずれるおそれがあるので、計画を5年後には見直すことになっております。ただし施設規模をその時点で変更することはできないので、規模設定にあたり若干の余裕率とか災害廃棄物を処理できる部分を上乘せして検討しております。

程塚委員：最終処分量が平成29年度と平成30年度を比べると、かなり少なくなっているがこの理由は何ですか。

事務局：最終処分場のリスク分散のために、新規に資源化先を開拓しています。これはセメントや人工砂の資源化という形で最終処分場の延命につながるようにしております。埋立に対して、資源化をすることは費用が結構かかるものなので、そのバランスをとりながら調整しています。

磐田委員：「市イベント等におけるリユース食器の普及促進」が伸びずC評価となっております。お祭りで使用してほしいと言っても、費用がかかってなかなか導入できない面もあるのでしょうか、費用補助等の施策はあわせて検討していますか。

事務局：おっしゃる通りリユース食器の普及が進まない理由はお金がかかるからでして、並行して補助制度についても検討したいと考えております。

磐田委員：サーマルエネルギーセンターについて、2施設を統廃合して1か所にするということですが、こちらにも新しく発電設備や地域住民のための熱利用は考えているのでしょうか。

事務局：東部環境センター、西部環境センターで300トンずつの処理能力があったものが、600トンから420トンになります。新しいサーマルエネルギーセ

ンターは東部環境センターの中に建てますので、近隣の東楽園という高齢施設を移転・拡充させ、センターから余熱を引き込んで利用するという計画を進めています。発電効率も1万キロワット程度を想定し、各事業者からの提案を審査する段階に入っております。

磐田委員：まだこれから作るということで目標には入ってこないでしょうか、ぜひCO2削減効果なども指標化すると思います。

秋元会長：今稼働している桜環境センターとクリーンセンター大崎は、CO2の削減量等の目標値は別途つくってあるんですよね？

事務局：はい。特にクリーンセンター大崎は、施設の延命化で国から補助を受けていますが、3%以上の削減をしないと補助金が出ません。コンサルタントが決まったところであり、少なくとも3%は削減します。

秋元会長：方法はエネルギー利用ですか。

事務局：エネルギー利用もですが、既存の設備の中でインバーター化や省電力化を加味して削減していきます。

長谷川委員：この事業評価シートは既定のものだと思いますが、局長あいさつにもあったSDGsは2030年度までにとというのが決まっていると思うので、そこのバックキャストをしっかりと決めて向かっていくほうが、さいたま市としてSDGsにしっかりと乗っているというのが出せるのではないのでしょうか。検討材料にしてほしい。

秋元会長：フードロスの活動などはSDGsに関係すると思いますが、パンフレット・動画を作って、さてどう情報発信していくかが一番重要かと思います。おそらくYouTubeを見てない方もたくさんいるので、どう市内で啓発して定着させていくかがキーポイントになるかと思うので、そこをどう計画しているか今後の市の方向性も聞かせてください。

事務局：Saitama Sunday Soup（日曜日は食べつくスープ！）動画とパンフレットは完成発表が今年の3月20日だったので、平成30年度の実績としては作成・配布までとなっています。4月以降、パンフレットは公共施設への配置のほか、環境学習などを通じて配布しており、今年の秋にはイベントなどで配布していきたいと考えております。動画は今年度からさいたま新都心駅前の大型ビジョンなど、市の管轄サイネージで上映しております。今後は市内の映画館で、映画上映前の広告枠で流していきたいと思っております。これからだと冬休みの親子映画等とうまく合わせていくと、食べつくスープのターゲット層である子育て世代の方にも見てもらえるのではないかと思います。これは新規の取組ですが、そういった形で動画を発信していきたい。あわせて新たに成立した食品ロス削減推進法では、10月はもともと3R推進月間でしたが、食品ロス削減月間にもなっております。さいたま市では大学コンソーシアム・東京ガスと連携して協働事業を進めているところですが、そこで体験型イベント

を行うという計画もしております。まだ Saitama Sunday Soup を見たこともない方もたくさんいるでしょうが、今後更に情報発信を進めていきたいと考えております。

SDGs と基本計画の関係につきましては、基本計画策定時においては SDGs とのリンクは図っておりませんでした。今後の計画は SDGs の立場でリンクさせてまいります。本市では環境基本計画を改定する予定ですが、そこでは紐づけをしていく方向で考えています。国の SDGs に向けた計画の中で循環型社会の構築が謳われております。市の基本計画の基本目標は「ともに取り組み、参加する めぐるまち（循環型都市）”さいたま”の創造」となっており、文字どおり循環型社会の構築のための計画となっているので、その点では SDGs にも合致した計画となっていると考えております。

大前委員：「家庭系剪定枝・大型木製品等の木くず及び刈草類のリサイクルの導入」について、まず家庭からごみとして出さないのが一番いいと思います。私は生ごみの処理器・コンポストを購入したときに助成を受けた経験がありますが、いきなり生ごみをコンポストでというのは失敗が多かったりするので、いまは剪定枝や落ち葉を入れて使っていて、うまくたい肥化できています。重量的に水分を剪定枝はかなり含んでいるので、もえるごみに出す量を減らすという考え方を前提に話を進めるといいと思います。

磐田委員：啓発の事業の出前講座についてですが、向こうから要請がないと出向けないというような事情があって、回数が減って評価結果に影響しています。ただ、事務局の説明によると出前講座・イベント等への出展・ごみスクールのトータルでは増えているとのこと、評価指標に合計数を入れるなど、見直しを考えるといいのではないのでしょうか。

秋元会長：フードロスの話ですが、やはり小中学生に知ってもらうことは重要じゃないでしょうか。中学の家庭科とか、小学校の高学年とか、給食の話とかにからめながら、学校教育も取り入れるといいとは思いますが。

他にありますか？

今日はいろいろな意見もいただけたので、記録に反映してもらえればありがたいと思います。

ご意見なければ次のその他に移りたいと思います。副会長からです。

■ その他

園田副会長提供の資料3に基づき、副会長より情報提供が行われた。

閉会